

グラフで見る関西経済(2023年2月)

2023年2月27日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 生産は12月に前月比で増加したが、水準は高くなく足踏み状態となっている。機械類が高水準である一方、電子部品デバイス、化学が低水準。
- 1月の実質輸出は3ヵ月連続で低下。足踏み状態となっている。
- 個人消費は、コロナの感染状況、物価上昇などが懸念されるが、ウィズコロナの進展（定着）により持ち直しの動きがみられる。
- 百貨店免税店売上は、入国規制の緩和もあってコロナ前ピークの半分強まで戻ってきている。

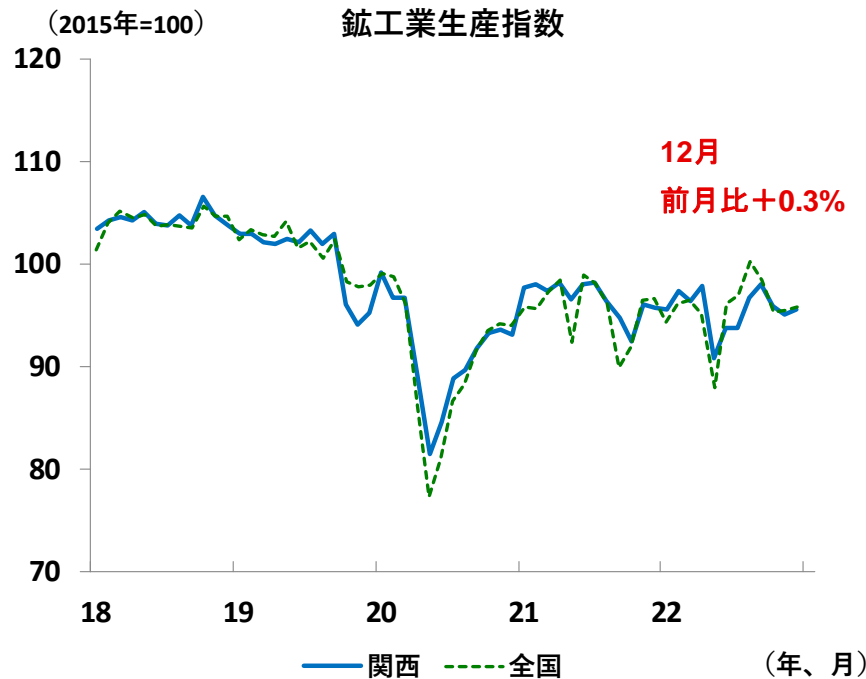
項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている(→)
生産	足踏み状態となっている(→)
輸出	足踏み状態となっている(→)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	請負金額は弱含み

注：()内は前月からの変化の方向

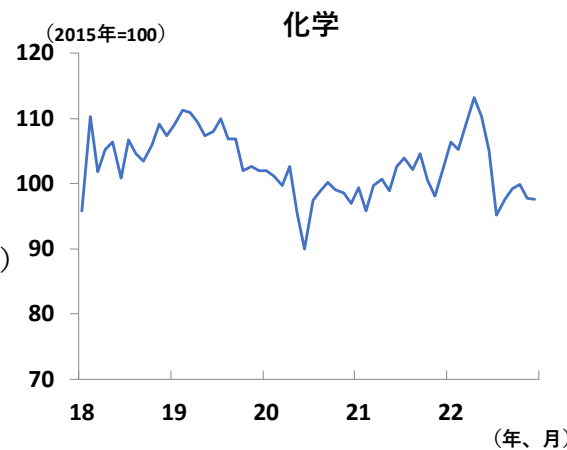
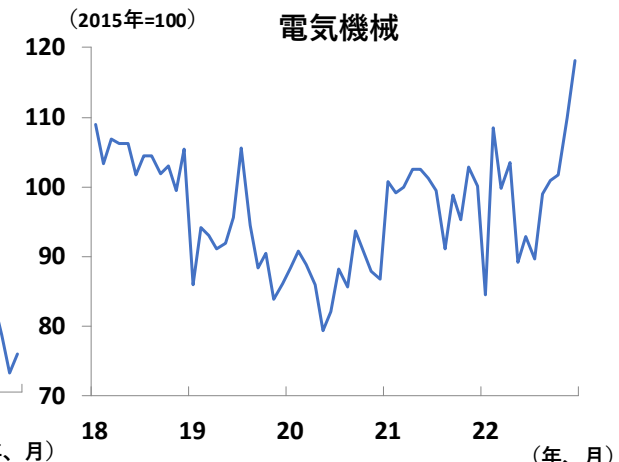
景気全般、生産、輸出は「持ち直しの動きが一服」から表現変更(→)

生産

12月の鉱工業生産(関西)は前月比+0.3%と3カ月ぶりに増加したが、足踏み状態となっている。業種別では、輸送機械、金属製品などが減少する一方、電子部品デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械などが増加した。

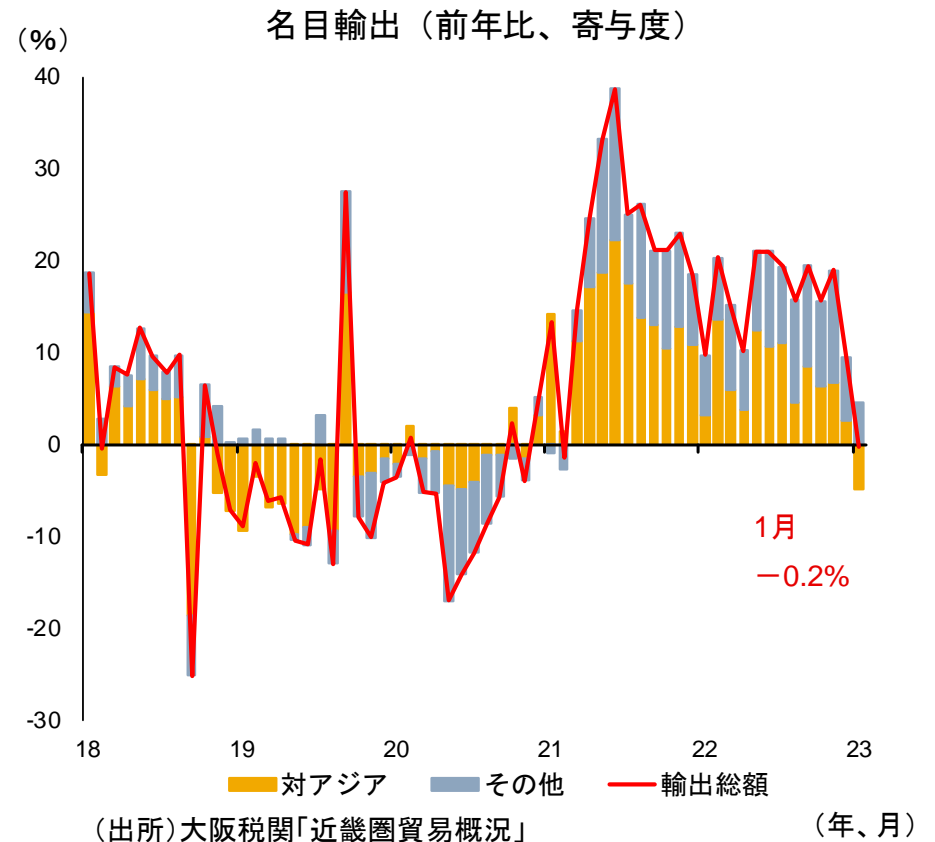
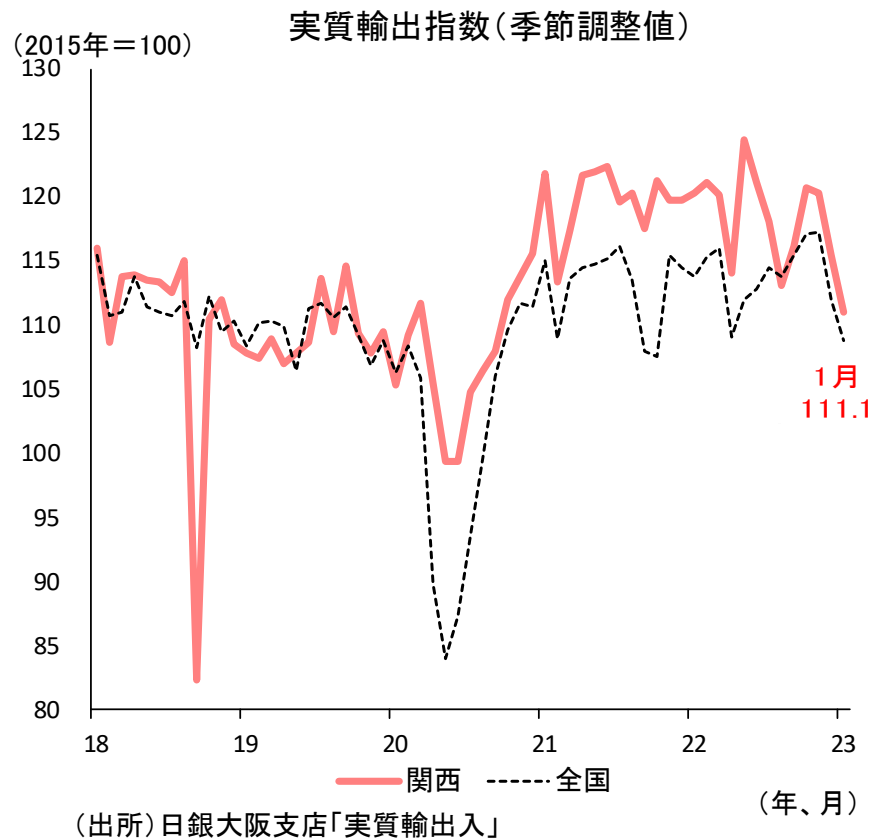


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」



輸出

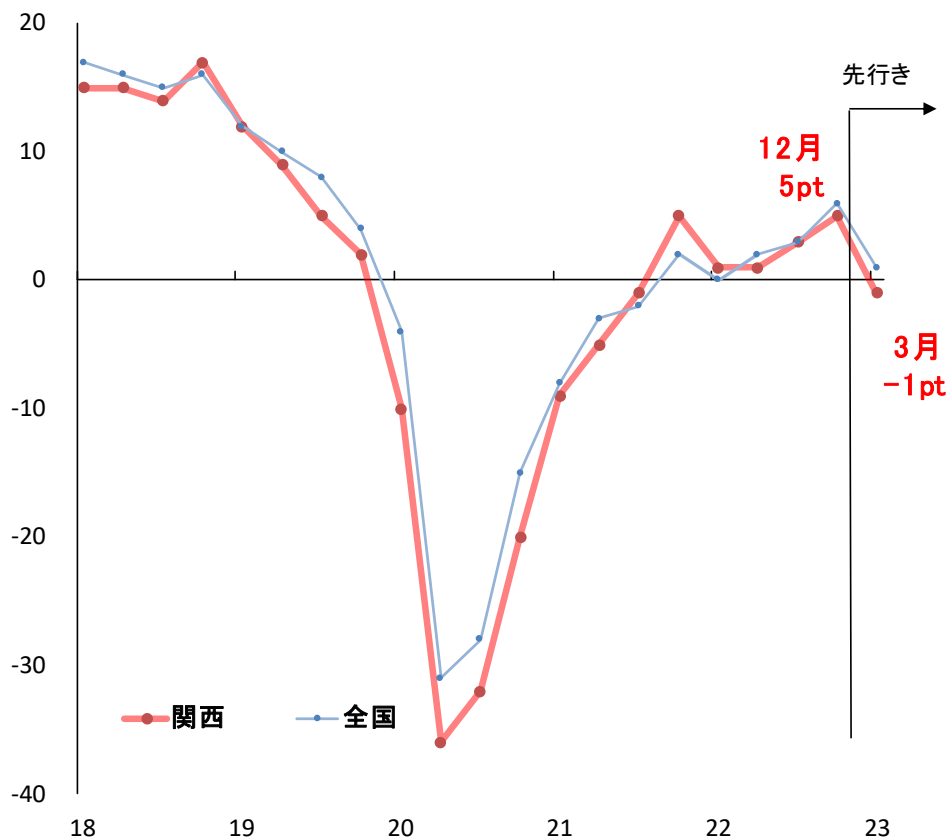
輸出は足踏み状態となっている。1月の実質輸出(季節調整値)は前月比-3.8%と3ヵ月連続で低下した。1月の名目輸出額は、中国春節の日並びの影響もあって前年比で-0.2%と23ヵ月ぶりに減少した。地域別ではアジア向けが減少した。品目別では半導体等電子部品、半導体等製造措置などが減少した。



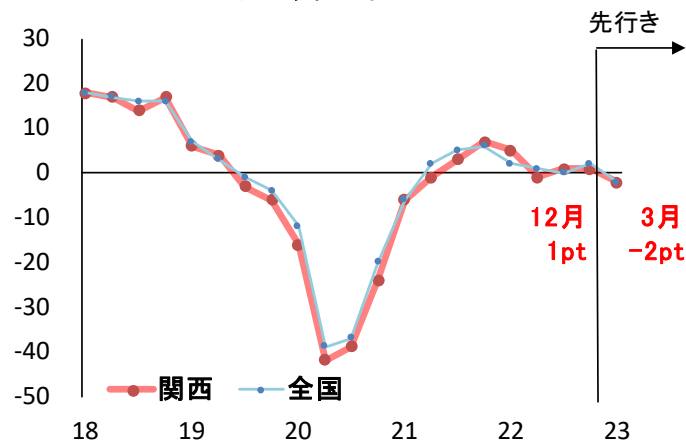
企業景況感(日銀短観) ※以下は12/14公表の12月調査。3月調査は4/3公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DIは、全産業で+5ptと9月調査から改善。製造業は横ばい、非製造業は改善した。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている。

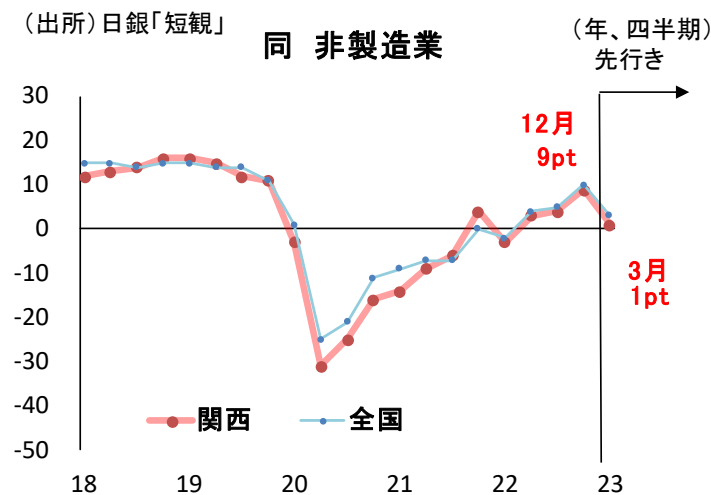
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



同 非製造業



(出所)日銀「短観」

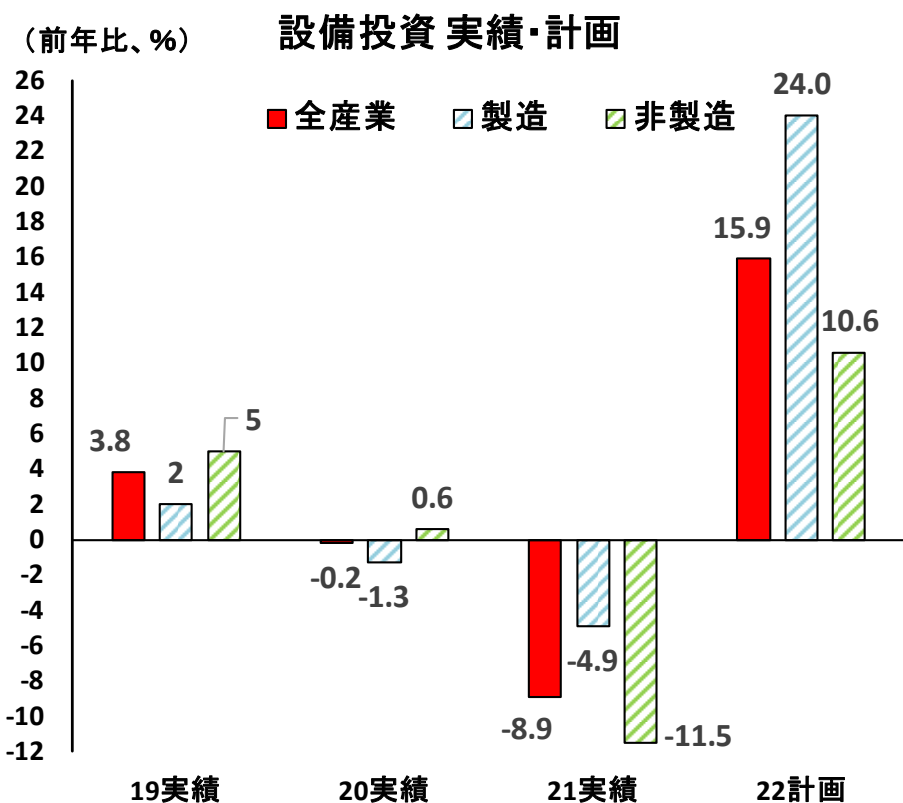
(年、四半期)

(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

設備投資※以下は12/14公表の12月調査。3月調査は4/3公表予定

日銀短観12月調査によると、22年度の設備投資計画は前年比+15.9%と9月調査から下方修正となったが引き続き増加を見込んでおり、持ち直しの動きがみられる。業種別の計画をみると、不動産が前年度比で大幅減となる一方、石油・石炭製品、鉄鋼、金属製品、建設、卸売などが大幅増を見込んでいる。



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

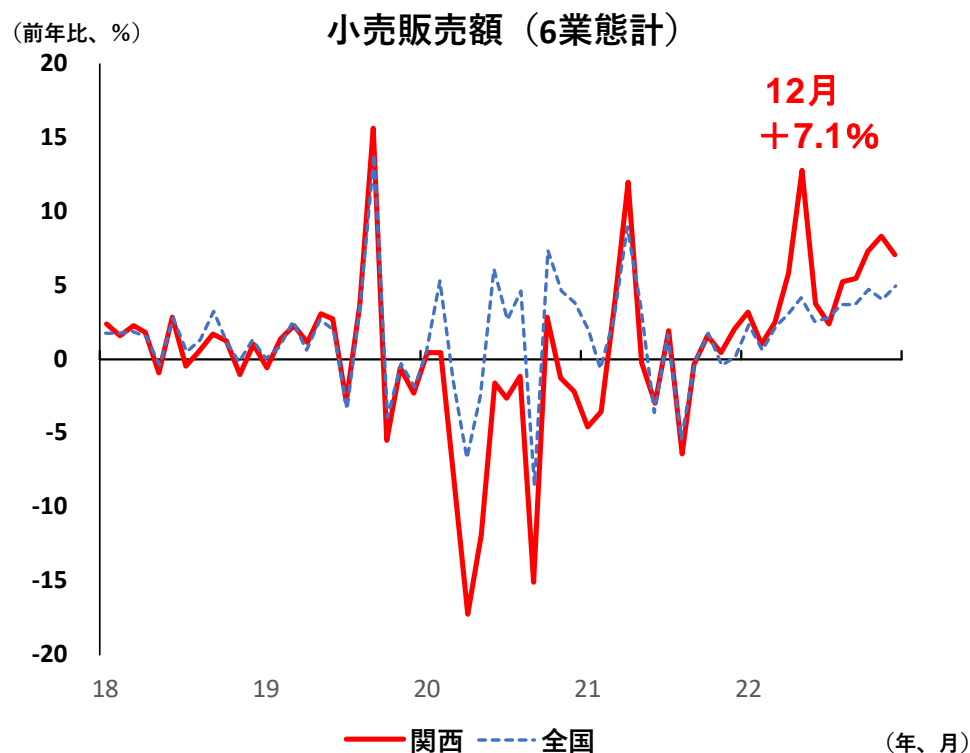
設備投資額(前年比%)

	21年度 実績	22年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	-8.9	15.9 (-1.7)	17.6
製造業	-4.9	24.0 (-1.0)	25.0
非製造業	-11.5	10.6 (-2.1)	12.7

個人消費(小売売上、自動車販売)

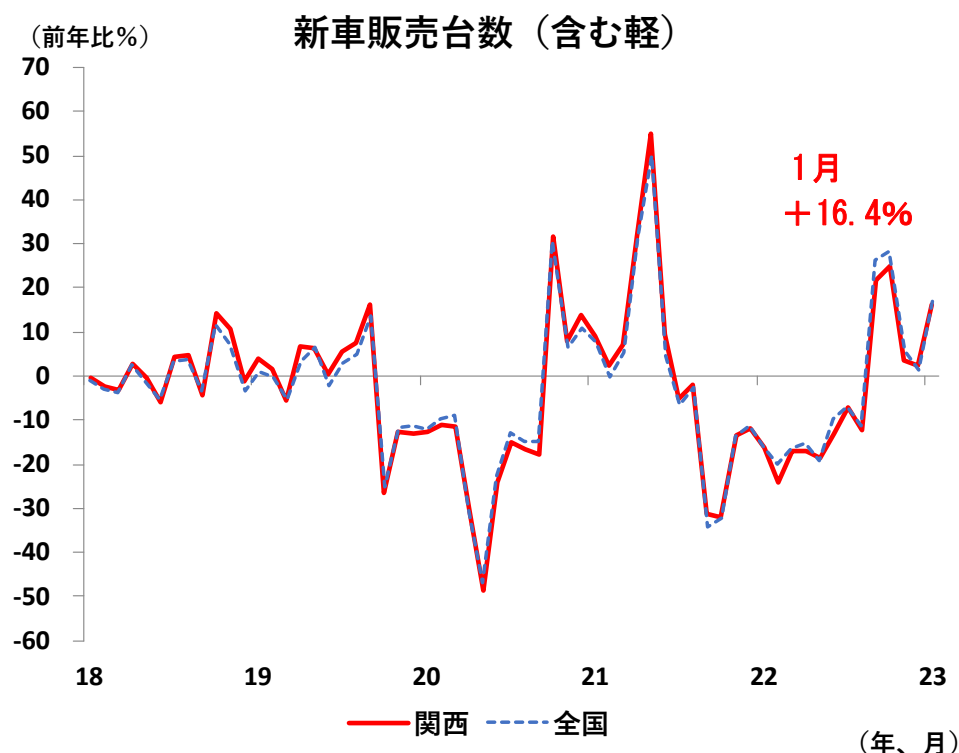
12月の小売販売額は前年比+7.1%と15ヵ月連続で増加した。先行きは、物価上昇、コロナ感染の行方などが懸念されるが、ウィズコロナの進展(定着)により持ち直しの動きが続くとみられる。

1月の新車販売は、前年比+16.4%の47,997台と5ヵ月連続で増加となったが、半導体調達難で自動車生産の停滞が続いており、水準は1月としては高いものではない。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

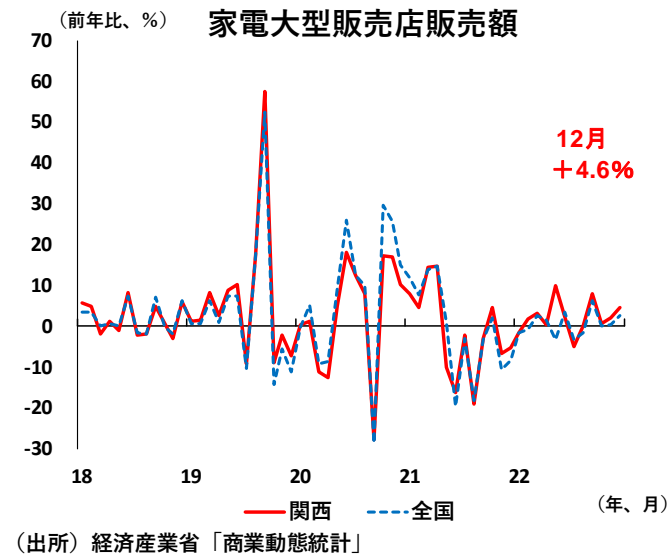
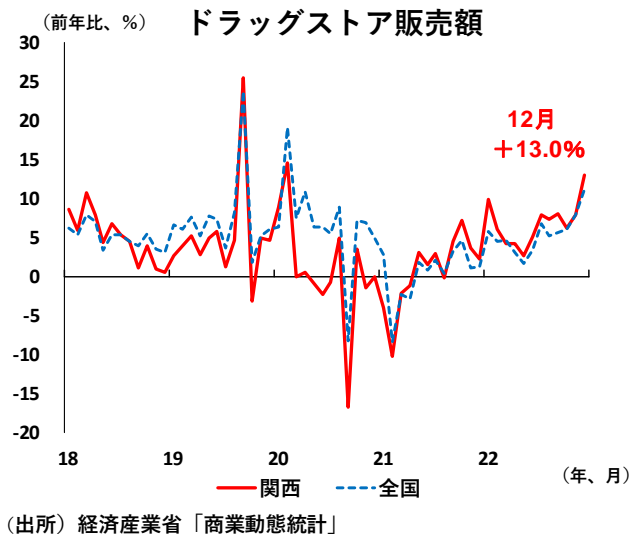
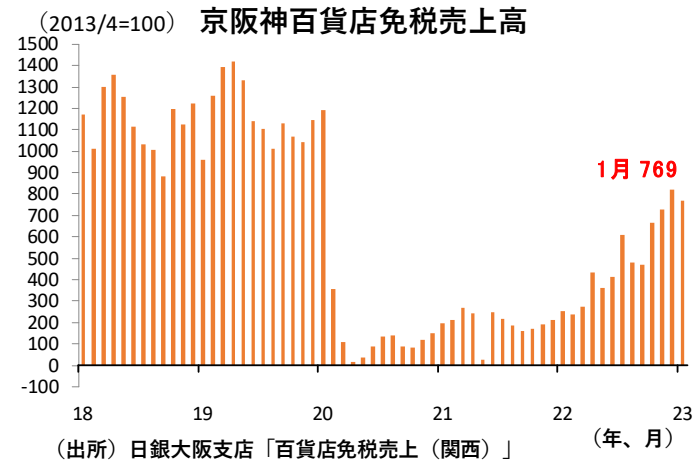
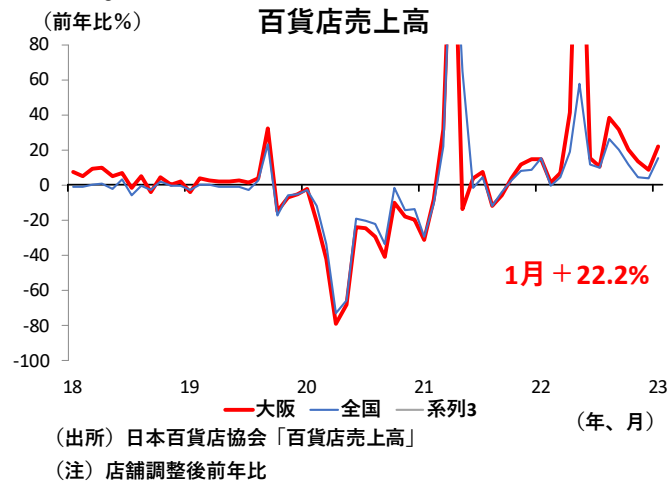


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

1月の百貨店売上(大阪)は前年比+22.2%と16カ月連続で増加した。京阪神百貨店免税売上は、入国制限の緩和もあって水準を上げてきており、1月は769とコロナ前のピーク(19年4月の1419.6)の半分強まで戻している。

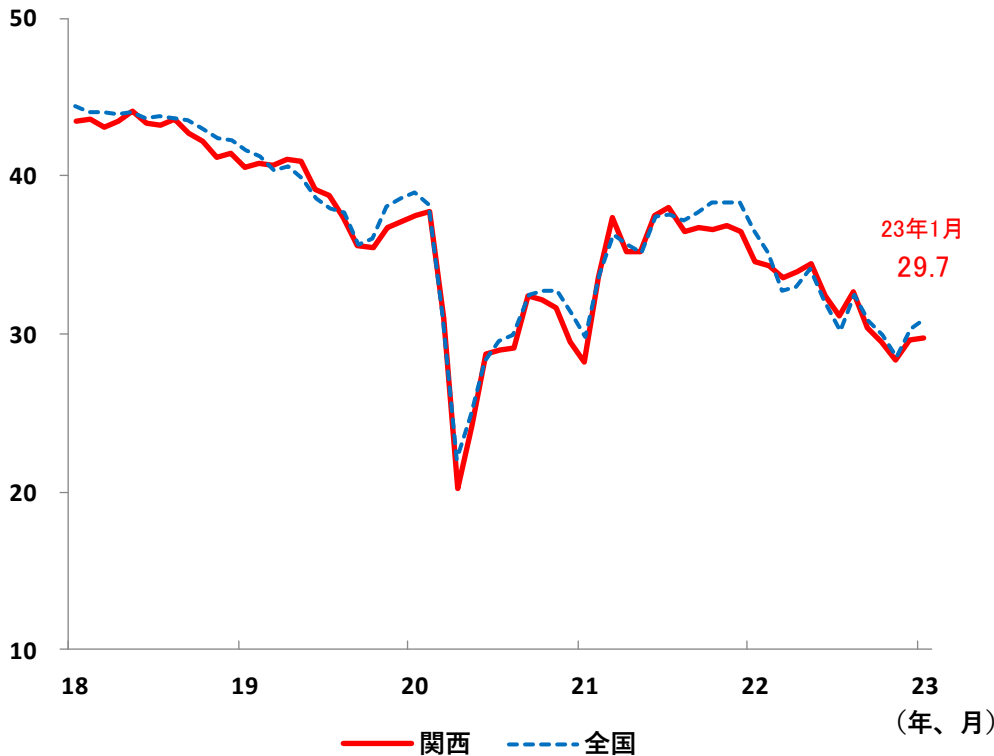


マインド・景況感

1月の消費者態度指数(季節調整値)は29.7と2ヵ月連続で上昇した。

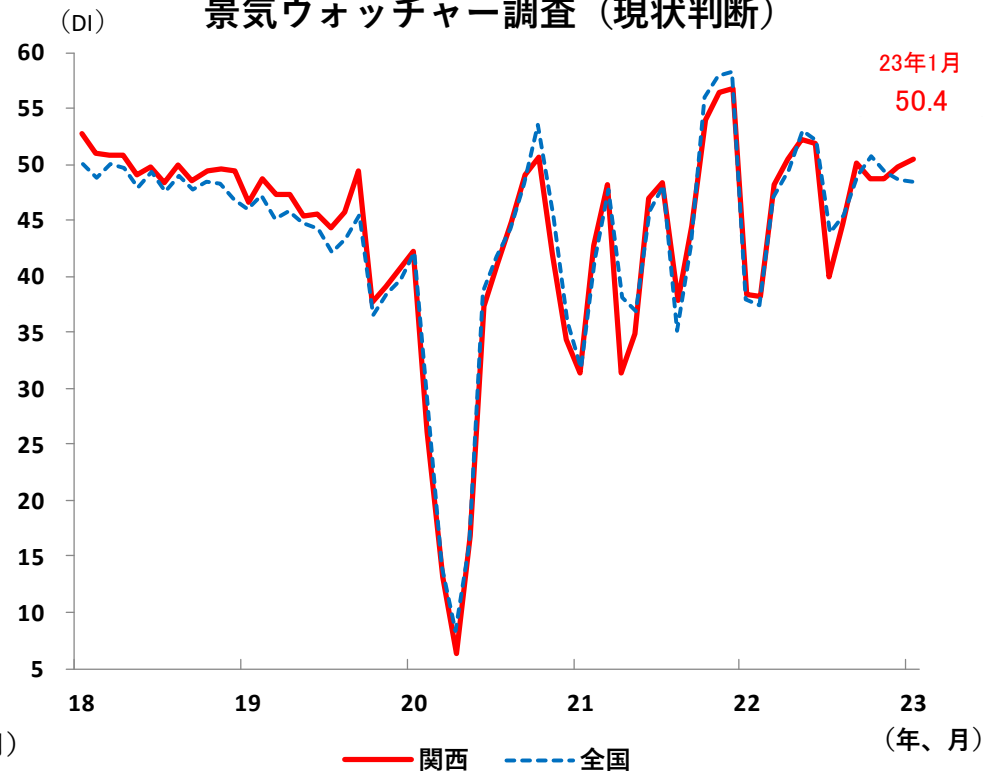
1月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、50.4と2ヵ月連続で上昇。横ばいを示す50を4ヵ月ぶりに上回った。物価上昇の悪影響が景況感を引き下げる一方で、インバウンドの増加など人流の増加が押し上げに寄与した。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

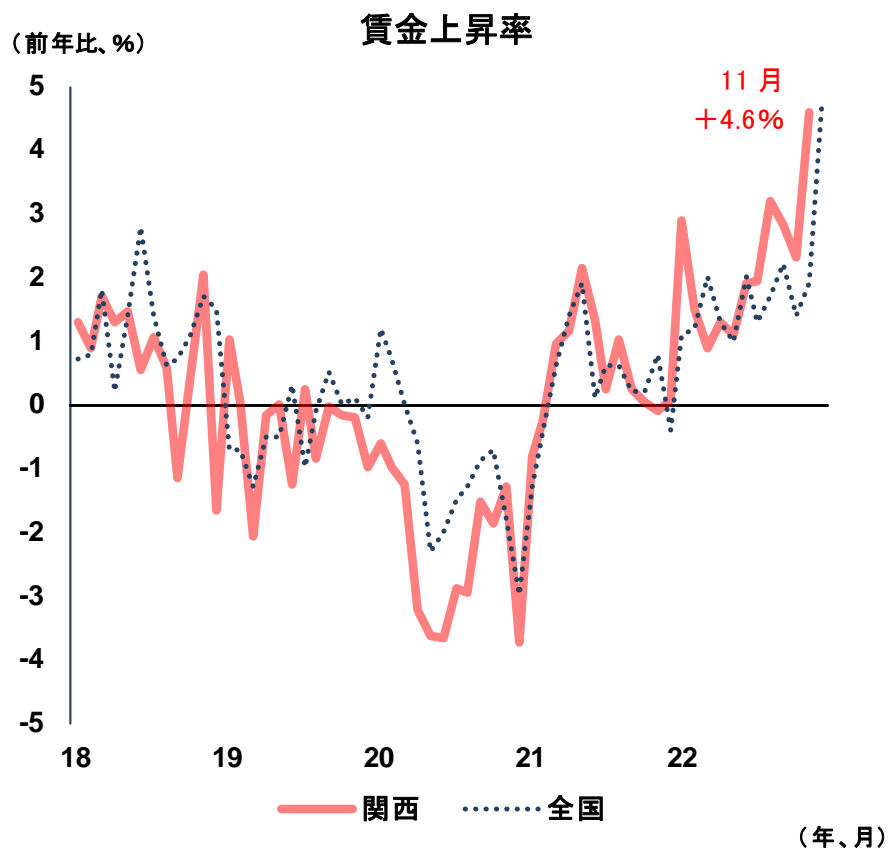
景気ウォッチャー調査(現状判断)



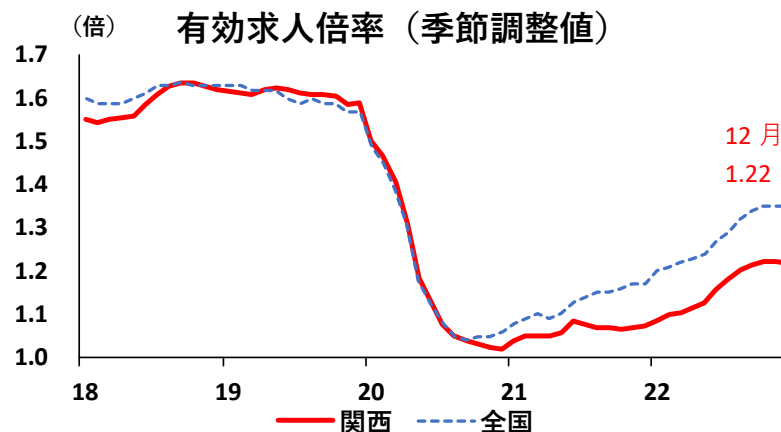
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

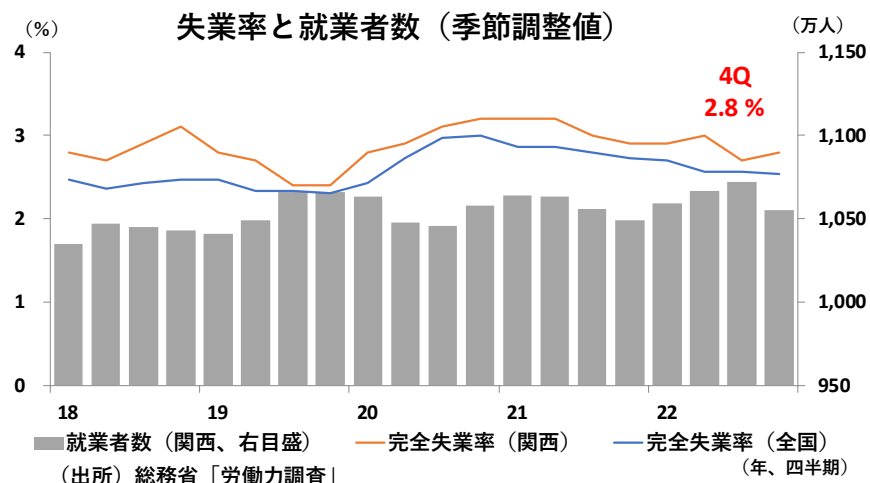
11月の名目賃金指数は前年比+4.6%と11ヵ月連続で増加。コロナ前の2019年比でも+3.1%と増加した。12月の有効求人倍率は1.22倍と前月と同水準。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。22年10-12月期の失業率は2.8%と前期より小幅上昇、就業者数は減少した。



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

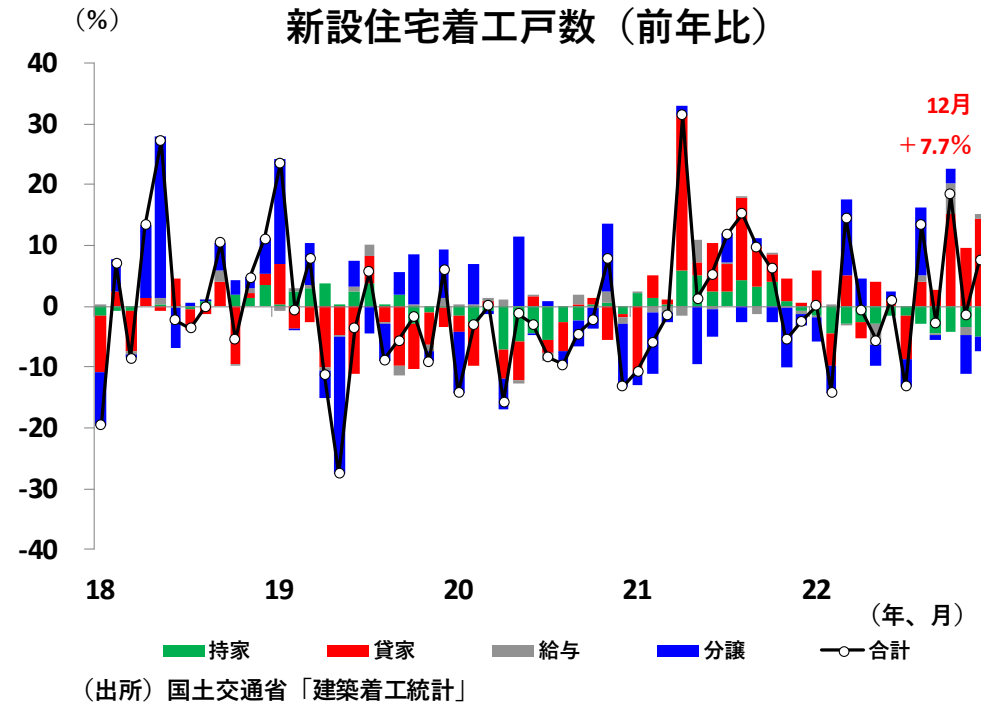
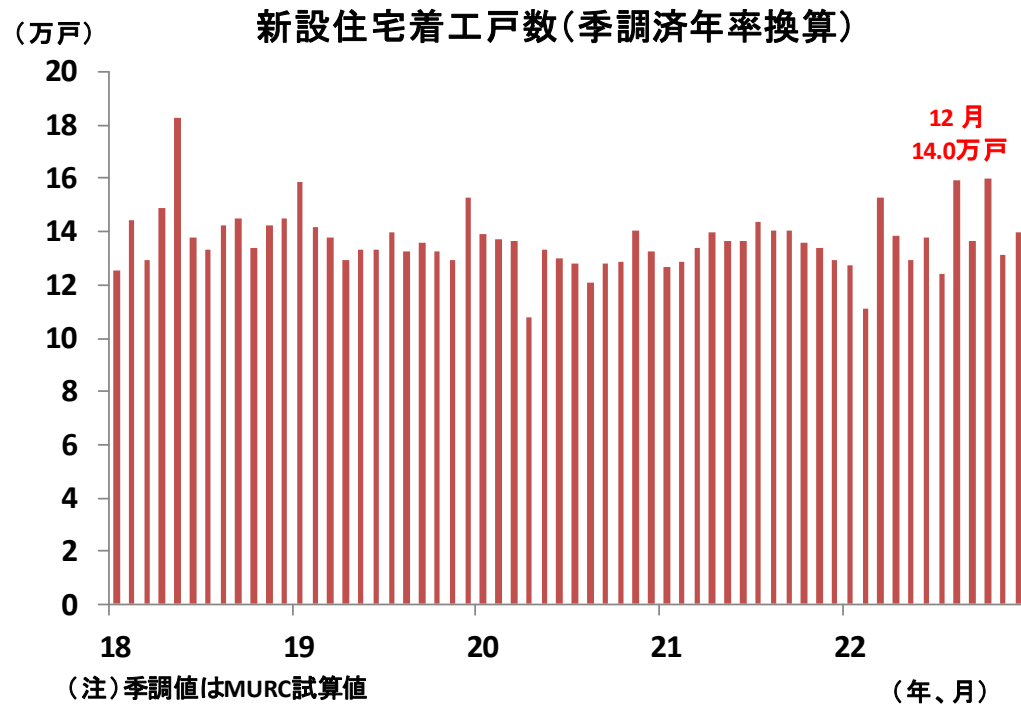


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



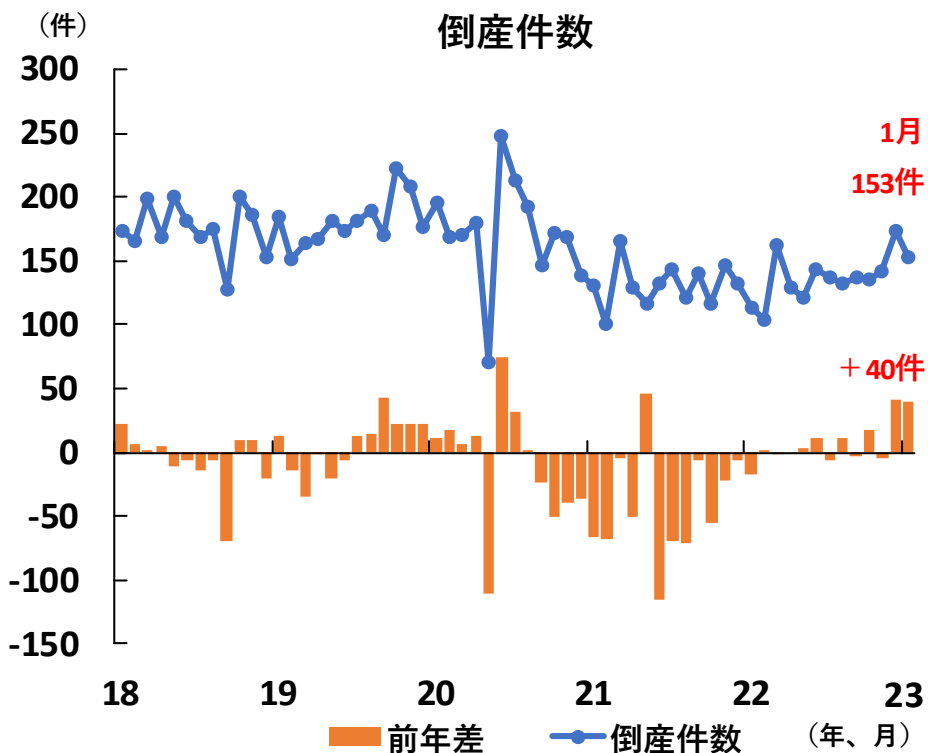
住宅投資

12月の住宅着工は季調・年率14.0万戸と2カ月ぶりに前月比で増加。均してみると横ばい圏で推移している。前年比では、貸家の増加により、全体で+7.7%の増加となった。



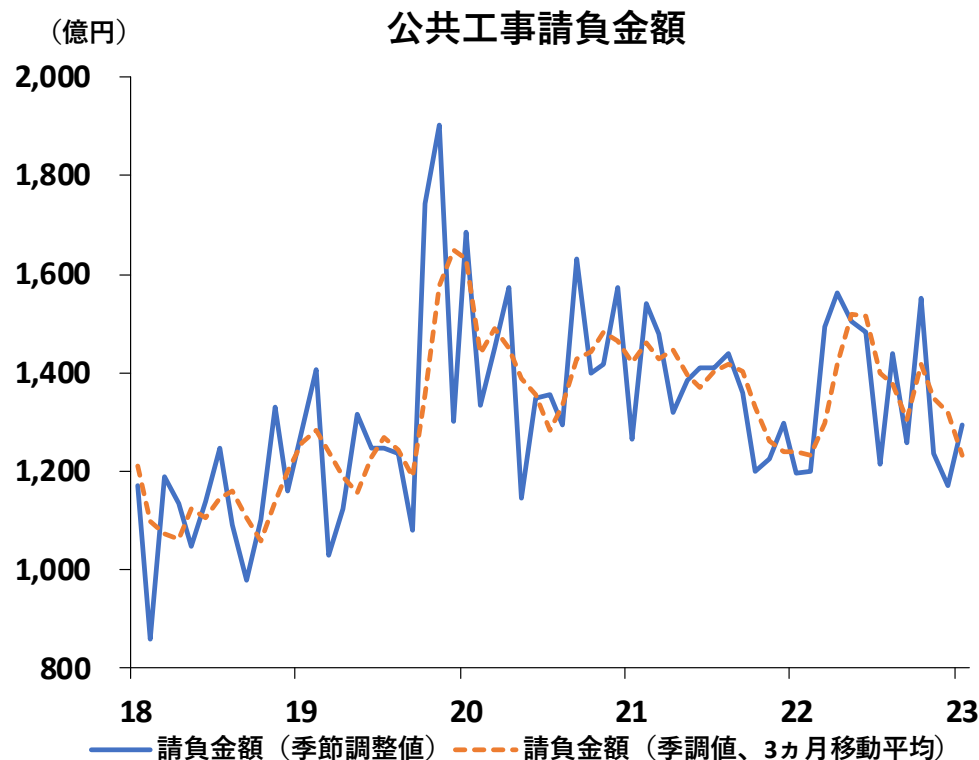
倒産

1月の倒産件数は153件と前年から40件増加。水準はまだ低いものの、前年からの増加幅は大きめとなっている。



公共投資

1月の公共工事請負金額は、季節調整済前月比で3カ月ぶりに増加したが、弱含んでいる。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください